

募金の流れを"見える化"信頼できるアプリを世界に ～つのるんずの開発～

済美高等学校 1年 水谷更紗

1 研究の背景・目的

近年、災害支援や貧困地域へのライフライン設備、学校建設の募金など数多く存在しているが、その一方で「そのお金が本当に目的通りに充てられているのか」といった疑問を持つ人が多い。今あるコンビニや街頭などに設置されている募金箱では寄付の現状や結果が不透明な部分があり、安心して募金ができる人が多い。こうした課題を解決するために募金の流れと使い道を可視化し、利用者が安心して募金ができるWebアプリ『つのるんず』を製作した。

2 Webアプリ内容

- ・アプリ内で募金したい場所や内容を選択できる
→「〇〇円で〇〇個に変換することができます」「アフリカの〇〇学校に募金」など
- ・自分のアカウントで募金活動をすることができる
→自分が社会の役に立っているということを実感できる
- ・キャッシュレス決済にすることで気軽に募金ができる
- ・募金してくれた人に対しての返礼としてポイント還元等で続けられる募金を実現
→クラウドファンディングをイメージ

募金の流れ

- ①会員登録→②お金を送金→③募金したい場所と項目を選択
- ④後日お礼のメールが届く（募金証明書を発行）

3 周りの人の募金の印象

アンケートを作り、クラスの人に募金をしたことがあるかないかなど、募金に対してどのような印象を持っているかなどの意見を聞いてみた。その結果は、多くの人が募金をした経験があり、中には五回以上行ったことがある人もいた。募金に対しては「人を助けられる」「少しでも役に立ちたい」など、前向きな意見が多く、悪い印象を持つ人はほとんどいなかった。

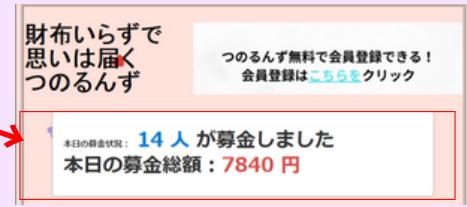
一方で、「本当にお金が現地で使われているのか」「詳細が分かりにくくて不安」といった声もあり、募金の信頼性に疑問を持つ人もいた。その疑問を解決するためにもつのるんずの開発は現実で実用化されると社会にいい影響をもたらすと考える。

4 Webアプリ開発

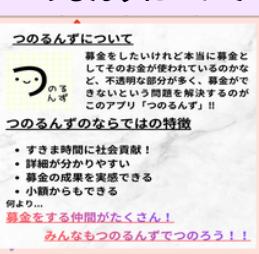
全体のWebサイト



chatGPTで本日の募金人数・募金総額のJavaScriptを作成（赤枠内）



つのるんずについて



募金活動の選択画面



会員登録画面はフォーム入力可能



5 結論

「つのるんず」開発では、募金の不透明さや信頼性の問題を解消し、安心して人助けができる仕組みのアプリの基盤を作ることができた。Webサイトを制作してアプリの基盤を構築し、募金先の詳細をわかりやすく提示することで、誰もが手軽に社会貢献に参加できる環境を整えた。今後はアプリ化を通して、より多くの人々の善意をつなぐことを目指す。

6 今後の願いと実用化に向けて

もしも実用化がされたら、SNSなどでシェアができるようになることで、ユーザーの獲得やほかのネットユーザーへの募金の呼びかけ効果があると思う。アプリユーザにも募金が届く現地の人にも利益がある要素をより考えることで実用化ができる募金アプリを開発できたら社会にいい影響を広げることができると考える。

7 参考文献・参考Webサイト・使用サイト

- ・日本情報処理検定協会（ホームページ作成検定）
- ・チャットGPT
- ・キャンバ
- ・ホームページ・ビルダー22クラシック